

H30 年度 特定非営利活動法人晃智会 事業計画書

H30 年 4 月 24 日

1. 総論

H30 年度は 2 名の正職員採用としたため施設基準における職員数は充足した一方で施設利用者数は昨年度末 3 月で一日利用平均 3.4 人、稼働率 17%とまだまだ不足。

利用相談の傾向として知名度の低さはあったものの、身体障害者の相談自体が少ない、少ない中でも入浴やリハビリテーション需要はあり、近隣の相談員などへ施設役割として認知されてきている、地域で医療ケアを有する障害者の受け入れ先がなく特に養護学校からの相談が目立った。

財政についてはまず収支の損益分岐点を目指して利用者を増やすことが継続して最重要課題となる。財政的な余力が乏しいため、利用者数が増えるにあたりどのタイミングで人員を増やすか、他の事業形態をどう展開するか微妙な判断が必要になる。

2. 重点目標・業務計画

(1) 稼働計画

現在 5 月で月間利用者数 160 人（稼働率 40%）へ増える見込み

⇒160 人のまま利用者数変わらなければ 9 月で今年度累積債務 1000 万超

月間収支損益分岐点：月間利用者数 220 人（稼働率 55%一日平均 10～11 人）

*実際は借入返済で+50 人、賞与支払いで+30 人、利用者増に伴う人員増で+40 人で稼働率 80%一日平均 16 人

(2) 業務計画

①生活介護 土日開設

まずは需要の把握から。

現利用者へのアンケート、相談員への提案や情報収集を実施

⇒3 か月後の 6 月末をめどに方向性を検討

②放課後デイサービス 開設

児童発達支援管理責任者不在であり、資格取得

⇒最短でも 10 月以降

今年度養護学校卒業後の利用者も数名おり、卒業後の生活介護へつなげるためにも許認可は得たいところ

昨今事業者数急増に伴い競争激化しており、養護学校の先生や相談員へ地域需要の確認し、十分な見込みの裏付けを確認が必須ではある。

半年（9 月末）を目途に情報を集め検討

③現在の利用者 週間利用数を増やす

(3) 人材確保

- ・(2)の動向で調整が必要
 - ・上記稼働計画に合わせ、月間利用者数200~220人を超えるあたりから職員数を増やしたい(業務や加算の関係)
 - ・5月より正職員数4.5人/6人(準正職員1名を0.5でカウント)となり、正職員数は充足
 - ・看護師のマンパワー不足、医療ケア受け入れ拡大傾向であることから常勤・非常勤看護師の獲得(当面は非常勤が望ましい)が最優先
 - ・生活支援員については非常勤でかつ経験のある即戦力が望ましい
入浴、送迎など現場のニーズに合わせた配置が出来る人材の確保
- ⇒人材確保は難渋することが予測されるため早めに
- ・医療ケア受け入れ拡大に伴い近隣医師との関係性構築、嘱託医を依頼